

躍進

いきいき狭山人
ひと



野鳥の観察をとおして 自然環境の変化を肌で感じ取る そして豊かな狭山の自然を次世代に伝えたい

水野地区在住で埼玉生態系保護協会
狭山支部会員の矢内
昭夫さんは、生涯学習
ボランティアと小学校の理科
支援ボランティアをとおし
て、長年にわたり、市民の皆さ
んや子ども達に市内で見ること
のできる鳥類の紹介を行っ

家から一歩外へ出て、ほんの少し周りを注意して見れば、いろいろな種類の鳥を見ることができます

「私が鳥類の観察を本格的に始めたのは、50歳を過ぎてからです。自然の中で鳥をたくさん見ることができると、名前を知らないのが大変もどかしく、何とか知りたいたいと思いました。当時、私に鳥の観察を教えてくれた先生の指導が大変素晴らしく、毎週のように探鳥会に参加しました。回数を重ねるうちに、自然に鳥の名前が分かるようになり、少しずつ鳥のことも深く理解できるようになりました」と語ります。

そんな矢内さんは、野鳥の観察をとおして、狭山市の自然環境の変化を知ることができます。たとえば、以前はまったく見ることができなかったカワセミが、最近では不老川沿いで観察できるようになったそう。不老川の浄化努力が実を結んでいる証拠だと思えます」と、うれしそうに語ってくれました。



矢内さんが智光山公園で撮影したコサギ

「自然環境の変化を理解するには、鳥に限らず、植物や昆虫などの観察がよいと思います。なにか一つのことを精通していると、次から次へと新しい疑問が生まれ、さらに深く知りたくなるものです」と語る矢内さんは、現在までに、およそ400種類の鳥類を観察してきました。この数字は、鳥類の観察者の中でも、本格的に観察を積み重ねないと達成できない数字です。さらに、「今まで私が見たことのない鳥が見られる」という話を聞くと、日本全国どこでも飛んでいきます」と、並外れた熱意と行動力を持っています。

日本野鳥の会埼玉県支部会員・
埼玉県生態系保護協会狭山支部会員

矢内 昭夫さん(水野在住)

市民みなさんの声

オピニオン

地域の温もりがうれしい狭山



則武有美さん
(下奥富在住)

私たちの家族は、昨年9月にお茶のまち狭山市に引越してきました。住んでみると昔からずっと住んでいる皆さんが多いと感じました。

引越したばかりのころ、道を歩いていて、すぐに声を掛けてくれる人もいて、人の心の通じ合う温かいまちだと思いました。つい最近も、スーパーマーケットで、買い物かごを台の上に乗せるのを手伝ってくれた方がいらっしやいました。自然にめぐまれ、親切な人々がたくさん住んでいる狭山市に来て本当によかったと思います。

現在子育て中なので、広報さやまの教育・子育て・キッズページのイベント情報は、大変役に立っています。これから、出かけるにもよい季節になりますから、市内の名所や、楽しいスポットなどをたくさん紹介してもらえればと思います。

市の考え方

狭山市では、昨年11月から狭山市に新しく転入された皆さんに、くらしの便利帳「ようこそ狭山市へ」と市のガイドマップを市民課窓口で配布しています。新しく狭山市民となった皆さんに必要なくらしの情報を提供するとともに、市内の文化・教育・福祉施設、レジャースポット、さらに散歩みちの紹介など、充実した内容となっていますので、ぜひご利用ください。

また、広報課では、広報さやまや公式ホームページ・モバイルサイトを使って、親子で楽しめるイベント情報などを充実していきますのでご期待ください。

担当 広報課

皆さんの「声」をお待ちしています。お寄せいただく際は、住所、氏名、電話番号をご記入ください。☎2954 6262(代)
✉koho@city.sayama.saitama.jp

そんな私たちも日ごろからのチームワークが重要なので、懇親会や、みんなで美術展に行くなど、会員同士のコミュニケーションを大切にしています。これからも、皆さんが私たちのおはなしを聞いて心豊かになってもらえるように、頑張りたいと思います。

問合せ 高橋愛子さんへ
2959 5277

私の宝物 ...

子育ての力になった一枚の写真

我が家は主人の転勤でよく引越しをしました。でも、子どもが生まれると、見知らぬまちで子育てをするのは不安でいっぱいでした。そんな時、公園に集まる同じ境



岩地美紀さん
遇のお母さんたちと親しく（入間川在住）なり、育児サークルの活動へと発展しました。写真は当時、相模原市に住んでいたとき



子育ての原点になった大切な仲間たち

のものです。10年前に狭山市に来てからも、子育てに苦労した時、この写真を見て、仲間と自分が頑張れたことを思い出し、勇気づけられました。人との出会いの素晴らしさを教えてくれるのもこの写真。今でも私の元気の源になってくれる大切な宝物です。

今回は、友人で加佐志にお住まいの方をご紹介します。

Hello ハロー 仲間たち

Vol.320



会員の個性や特技を生かし、聞く人に感動を与えます

おはなしのろうそく

私たちの会は、図書館の本を子ども達に読み聞かせする、狭山台読み聞かせの会」を前身に昭和57年に発足しました。現在は、12名の会員が毎週火曜日に狭山台公民館で活動しています。

私たちの「おはなし」は、主に子ども達が対象ですが、話に合せてパネルを使ったり、楽器を使って音楽を流すなど、聞く人の創造性を豊かにし、心に残る工夫をしています。

公民館では、定例会のほか、図書館などのボランティアとしておはなしの準備や練習に励んでいます。最近では、子ども達だけでなく、大人にも大変喜んでもらっています。老人福祉施設にも行きますが、少しでも安らぎを与えられたら、私たちも本当にうれしいことです。